

**教育委員会の事務の管理及び
執行状況に関する点検・評価報告書
(平成23年度対象)**

**平成24年9月
新潟市教育委員会**

— 目次 —

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況について	2
1	教育委員会会議の開催状況	2
2	教育委員会会議以外の活動状況	3
3	平成23年度の主な取組と成果	5
III	新潟市教育ビジョンの施策評価について	6
1	平成23年度施策評価一覧	6
2	主な施策・事業の評価状況	7
3	教育ビジョン推進委員からの主な意見・要望と教育委員会の対応	14

I はじめに

平成19年6月に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が一部改正され、平成20年4月から、各教育委員会においては、毎年、教育に関する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、地教行法第27条の規定に基づき、平成23年度の教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検・評価を行いました。

本報告書は、その結果をまとめたものであり、「II 教育委員会の活動状況について」では、教育委員会会議の開催状況や、会議以外の教育委員の活動状況について記載しています。

また、「III 新潟市教育ビジョンの施策評価について」は、本市教育委員会の活動の根幹をなす「新潟市教育ビジョン」の、平成23年度の施策の実施状況、進捗状況等について、有識者などで構成される「新潟市教育ビジョン推進委員会」の知見を活用しながら、点検・評価を実施した内容となっています。

教育ビジョン推進委員会における施策評価の状況などについては、巻末に参考資料として掲載してあります。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会会議の開催状況

○新潟市教育委員会定例会・臨時会

平成23年4月定例会	教科用図書採択に関する基本方針	他
平成23年5月定例会	平成23年5月議会臨時会の議案	他
平成23年6月定例会	若者支援センターの開設及び愛称	他
平成23年7月臨時会	職員の人事措置	
平成23年7月定例会	教科用図書の採択	
平成23年8月定例会	教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価の議会報告	他
平成23年9月定例会	平成23年9月議会定例会の議案	他
平成23年10月定例会	学校適正配置基本方針（案）にかかるパブリックコメントの結果	他
平成23年11月定例会	平成23年12月議会定例会の議案	他
平成23年12月定例会	新潟市学校施設の開放に関する規則の全部改正	他
平成24年1月定例会	社会教育法の改正に伴う新潟市公民館条例の一部改正等	他
平成24年2月定例会	平成24年2月議会定例会の議案，市立学校の校長の人事	他
平成24年2月臨時会	教育委員会委員の辞職	
平成24年3月定例会	規則の制定・改正，事務局及び機関の長の人事	他
平成24年3月臨時会	委員長の選挙，教育長の選任	他

○教育委員会会議の公開等に関すること

- ・会議について 原則公開（人事案件等非公開の場合あり）
- ・開催案内について ホームページ・市報にいがた等に掲載
- ・会議案件について ホームページで案件名を事前に公開
- ・会議録について 会議終了後，会議速報をホームページに掲載
会議録作成後，速やかに，ホームページに掲載及び市政情報案内室において公開
- ・傍聴の平均人数 4.38人

- ・地教行法等に基づき，新潟市では，毎月，教育委員会定例会，及び必要に応じて臨時会を開催しており，平成23年度は15回の会議（定例会12回，臨時会3回）を開催しました。（付議事件33件，報告案件32件）
- ・教育委員会定例会の案件となる前に，事前に協議会などを開催し，案件について十分な検討を行っています。平成23年度は，事務の管理及び執行状況に関する点検・評価などについて，検討を行いました。また，会議の資料については，事前に教育委員に配付され，各教育委員が十分内容を把握した上で定例会に出席しており，毎回活発な意見が交わされています。
- ・また，会議については，原則公開で行われています。（人事案件等非公開の場合あり）

2 教育委員会会議以外の活動状況

○市内視察

平成 23 年 7 月 大野小学校（廊下拡張型多目的スペース，授業参観，懇談会）

平成 24 年 1 月 亀田東小学校・木戸中学校（生徒指導に対する取り組み，懇談会）

1 年間に 3 校程度の市内視察を行っており，教育現場の状況を把握するようにしています。また，現地では必ず，意見交換を行うようにしており，情報交換に務めています。

○行政視察（県外視察）

平成 23 年 11 月 京都市

- ・京都市立御所南小学校（小中一貫コミュニティ・スクールの取り組み）
- ・京都市立堀川高等学校（文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール事業の取り組み）
- ・京都市発達障害者支援センター（教育委員会等と連携した，幼児・児童期コンサルテーション事業）

- ・1 年に 1 度，一泊二日で，県外に行政視察を行い，先進の教育行政を参考にして新潟市の教育行政に役立てています。
- ・平成 23 年度は，御所南小学校では，小中一貫コミュニティ・スクール事業，堀川高等学校では，文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール事業といった学校運営の概要説明及び施設を見学し，懇談を行いました。京都市発達障害者支援センターでは，教育委員会等と連携した幼児・児童期コンサルテーション事業の概要説明及び施設見学及び懇談を行いました。

○指定都市協議会・他団体関係

平成 23 年 5 月 新潟県都市教育長協議会 春季定期総会

平成 23 年 6 月 第 1 回 指定都市教育委員・教育長協議会

平成 23 年 7 月 新潟県市町村教育委員会連合会 理事会・総会・研修会

平成 23 年 11 月 都道府県・指定都市新任教育委員研究協議会

平成 24 年 1 月 第 2 回 指定都市教育委員・教育長協議会

- ・都道府県・指定都市新任教育委員研究協議会に新任の教育委員が参加している他，他総会等へ積極的に参加し，他指定都市や市町村の教育委員とも積極的に情報交換をおこなっています。

○懇談会・意見交換会

平成23年11月 区自治協議会委員との懇談会（東・中央・江南・秋葉・西区）
（地域と学校について）

平成23年12月 区自治協議会委員との懇談会（北・南・西蒲区）
（地域と学校について）

平成24年2月 民間人校長，行政出身校長との意見交換会
（校長の採用から現在までを振り返り，現場での奮闘ぶりや目指す学校像について）

平成24年2月 市長・副市長との懇談会
（テーマは設定せず自由懇談）

- ・教育委員会と地域との連携強化，開かれた教育委員会を目指し，「地域と学校について」をテーマとして，各区自治協議会委員との懇談会を2回にわけて行いました。
- ・民間人校長である味方中学校長・赤塚小学校長，行政出身校長である黒崎南小学校長・矢代田小学校長との意見交換の他，市長・副市長とは，テーマは設定せずに懇談会を行いました。

○学校周年事業への教育委員の出席

平成23年7月 新関小学校新校舎竣工記念式典

平成23年7月 荻川小学校開校記念式典

平成23年10月 藤見中学校創立50周年記念式典

平成23年11月 笹口小学校創立140周年記念式典

平成23年11月 小針中学校40周年記念式典

○卒業式への教育委員の出席

平成24年3月 万代高等学校，高志高等学校，明鏡高等学校，東特別支援学校，西特別支援学校

○その他の出席

成人の日のつどい，小・中学校教員採用選考検査確認，学校長・園長研修会，教育フォーラム，マイスター養成塾 等

3 平成 23 年度の主な取組と成果

平成 23 年度も教育ビジョン後期実施計画に基づき、「確かな学力の向上」、「家庭・地域の教育力の向上」、「学・社・民の融合による教育の推進」などに引き続き取り組みました。

教育委員会の主な取組と成果として、次のことがあげられます。

① 学校適正配置の推進

新潟市立学校適正配置審議会の答申を踏まえ、子どもたちのより良い教育環境の確保を目指して、「学校適正配置基本方針」を策定した。

この方針に基づき、複式学級や教室の不足が見込まれる学校など、緊急性の高い地域から協議を開始し、いくつかの地域においては「地域検討会」が設立された。

② 若者支援の取り組み

様々な若者を対象とした「若者支援センター オール」を開設し、困難を抱える若者などに対する相談や自立支援事業を実施した。

また、深刻化している若者の問題を複合的に支援するため、51 の関係機関等で構成される「若者支援協議会」をあわせて設置した。

③ 基礎・基本を身につける教育の推進

平成 22 年度に試行した本市独自の単元評価問題の学校向け Web 配信を、対象学年を拡大し本格的に実施した。

単元別の基礎的・基本的な知識・技能の習得状況を把握し、児童生徒へのきめ細かな指導に役立てることができ、学力実態調査の結果においても向上が見られた。

また、大学生などの学習支援ボランティアを引き続き各校に配置するなど、児童生徒一人ひとりの学力実態の的確な把握と、きめ細かな指導に努めた。

④ 地域と学校パートナーシップ事業の拡大

学・社・民の融合による教育を推進する取組として、「地域と学校パートナーシップ事業」を引き続き実施し、地域教育コーディネーターを前年度の 105 校から 139 校に拡大して配置した。

事業に伴う学校支援ボランティアの活動機会は延べ 36,634 回、150,797 人となり、学校を中心とした地域コミュニティや地域の教育力の一層の醸成が図られた。

III 新潟市教育ビジョンの施策評価について

新潟市教育ビジョンの平成23年度の実施状況について、有識者(教育ビジョン推進委員会)の知見を活用した評価を以下に示します。

1 平成23年度施策評価一覧

全施策の平均 3.17 (学びの扉の平均3.47)

評価分布(評価対象60指標)

・目標を上回って達成…33.3% ・目標どおり達成…38.3% ・目標を少し下回った…25.0% ・目標を大きく下回った…3.3%

凡例
 目標を上回って達成 …4
 目標どおり達成 …3
 目標を少し下回った …2
 目標を大きく下回った…1

基本施策(14施策)		施策(62施策)		H23施策評価(後期進捗)	
		網掛…5つの「学びの扉」に該当する施策 ☆…説明に取り上げる施策			
1	確かな学力の向上	1-(1)	学ぶ目的意識をもち、将来の生き方を考える教育の推進	3	3.2
		1-(2)	自ら学び自ら考える教育の推進	3	
		1-(3)	基礎・基本を身に付ける教育の推進 ☆	3.3	
		1-(4)	学習習慣の定着と読書活動の推進	3.3	
2	豊かな心と健やかな体の育成	2-(1)	いのちの教育・心の教育の推進 ☆	2	3.2
		2-(2)	体験活動・ボランティア活動の支援 ☆	3	
		2-(3)	文化・芸術活動体験の推進	4	
		2-(4)	いじめ・不登校への対応 ☆	2.5	
		2-(5)	非行等への対応 ☆	3	
		2-(6)	体づくりの推進 ☆	4	
		2-(7)	健康づくりの推進	4	
		2-(8)	食育の推進 ☆	3.5	
		2-(9)	青少年の居場所づくり	3	
		2-(10)	青少年の健全育成の推進	3	
3	世界と共に生きる力の育成	3-(1)	地域学習の充実	4	2.9
		3-(2)	国際理解教育の充実	4	
		3-(3)	コミュニケーション能力の育成	2	
		3-(4)	情報教育の充実	3	
		3-(5)	環境教育の充実	2.5	
		3-(6)	海外帰国子女教育・外国人児童生徒への教育の推進	2	
4	自立と社会参加を目指した特別支援教育の推進	4-(1)	自立を目指す特別支援教育の推進	4	4
		4-(2)	特別支援教育のサポート体制の推進 ☆	4	
		4-(3)	市立養護学校のセンター的機能の充実	4	
		4-(4)	ノーマライゼーションの推進	4	
5	校種間・学校間連携を活かした特色ある学校・園づくり	5-(1)	校種間連携の推進 ☆	4	3.7
		5-(2)	学校間連携の推進	4	
		5-(3)	幼児教育の充実	3	
6	人権を守り共に支え合う社会の推進	6-(1)	人権教育・同和教育の推進	3.7	3.9
		6-(2)	交流・体験活動の推進	4	
7	家庭教育の充実と子育て支援	7-(1)	家庭教育充実の支援 ☆	3.3	3.0
		7-(2)	子育て支援の充実 ☆	2.7	
8	生涯を通じて学び育つ学習機会の充実	8-(1)	主体的な学習を支えるシステムづくり	2	2.8
		8-(2)	学び育つ各世代への支援 ☆	3	
		8-(3)	地域における生涯学習活動への支援 ☆	3.5	
9	まちづくりに生かす生涯スポーツの推進	9-(1)	生涯にわたるスポーツ活動の推進	—	2.5
		9-(2)	競技力の向上	2	
		9-(3)	みる機会・交流機会の拡大	1.5	
		9-(4)	住民主体のスポーツを支える組織の構築	4	
10	学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり	10-(1)	地域と共に歩む学校づくりの推進 ☆	3.7	3.4
		10-(2)	広報広聴活動の推進	4	
		10-(3)	学校・地域・NPO等の協働の推進	3.8	
		10-(4)	高等教育機関及び企業等との連携促進	2	
		10-(5)	子ども・保護者・地域住民の学校運営への参画	4	
		10-(6)	市民の生涯学習施設運営への参画	4	
		10-(7)	区単位での教育支援体制の整備	2	
11	子どもの安全確保と学校・園の安全管理	11-(1)	保護者や地域と連携した安全対策の推進	2	2.8
		11-(2)	安全教育の充実 ☆	3	
		11-(3)	安全な学校施設	3.5	
12	学校教育・生涯学習環境の整備	12-(1)	効果的な指導を支援する施設設備の整備	4	3.4
		12-(2)	コミュニティの拠点としての学校整備	4	
		12-(3)	学校施設の整備	2.7	
		12-(4)	公民館・図書館を核としたネットワークづくり	2.7	
13	市民に信頼される教育関係職員の育成	13-(1)	教育関係職員の研修プログラムの充実 ☆	2.8	2.7
		13-(2)	教職員への支援体制の充実 ☆	4	
		13-(3)	信頼される教職員の採用・登用 ☆	1	
		13-(4)	教育関係職員の人事管理の適正化	3	
14	ニーズと課題に応える教育行政の推進	14-(1)	教育情報の収集と発信	3	3.0
		14-(2)	学校を支援する新たなシステムづくり	4	
		14-(3)	多様な教育の機会・支援体制の整備	3	
		14-(4)	学校の適正配置	3	
		14-(5)	効率的な執行体制の整備	—	
		14-(6)	教育施策に対する評価の充実	2	

2 主な施策・事業の評価状況

「学びの扉」に該当する施策に加え、そのほかに重点的な取組を進めてきた施策を取り上げています。

1 確かな学力の向上

1-(3) 基礎・基本を身に付ける教育の推進

H23施策評価
3.3

主な事業 ・学力実態調査 ・理数大好きプロジェクト
 ・学力定着支援事業
 ・学習支援員派遣事業

●施策の目標

指標	現状	H22	H23	H24	H25	H26	H23評価
指標 1-(1) 学力調査で全国平均を上回った児童(小6・国語)の割合(%)							4
指標目標	60.8	→	→	64.0	→	65.0	
進捗状況		65.6	65.5				
指標 1-(2) 学力調査で全国平均を上回った児童(小6・算数)の割合(%)							4
指標目標	55.2	→	→	58.0	→	59.0	
進捗状況		54.1	68.9				
指標 2-(1) 学力調査で全国平均を上回った生徒(中3・国語)の割合(%)							2
指標目標	63.5	→	→	67.0	→	69.0	
進捗状況		60.5	61.4				
指標 2-(2) 学力調査で全国平均を上回った児童(中3・数学)の割合(%)							2
指標目標	53.4	→	→	55.0	→	56.0	
進捗状況		53.7	52.1				
指標 3 評価問題を活用している学校数(校)							4
指標目標	—	32	64	96	128	160	
進捗状況		171	173				
指標 4 学習支援員の派遣数(人)							4
指標目標	156	164	172	180	183	183	
進捗状況		154	193				

全国学力調査で、小学校算数が、平成22年度と比べ大きく向上した。

・全国学力調査の全国平均を上回った児童生徒の割合が、小学校算数では、平成22年度から14.8%増加した。

・学力調査実施後、調査結果を分析・考察した教師用資料及び児童生徒用の復習用ワークシートを配布し、各学校の指導の一助とした。

・基礎基本を着実に身に付けさせるためステップアップWeb配信事業で、6月から2月までの月1回、小学校4年生から中学校3年生までの算数・数学の評価問題、解説、補充問題を配信した。

・学習支援員は、学校現場からの希望が多く、派遣開始時期を早めて実施した。

2 豊かな心と健やかな体の育成

2-(1) いのちの教育・心の教育の推進

H23施策評価
2

主な事業 ・道徳教育の充実 ・家庭教育振興事業
 ・福祉教育の充実
 ・人権教育・同和教育の推進

●施策の目標

指標	現状	H22	H23	H24	H25	H26	H23評価
指標 1 地域の人材などを活用した道徳授業を実施している学校の割合(%)							後期進捗 2
指標目標	47	60	70	80	90	100	
進捗状況		80.0	62.0				
指標 2 福祉読本を活用した福祉教育を実施した小・中学校の割合(%)							後期進捗 2
指標目標	90	92	94	96	98	100	
進捗状況		84.0	84.0				

地域人材などを活用した道徳授業の推進や、福祉読本の活用が、目標に達しなかった。

・地域人材などを活用した道徳授業を含め、家庭・地域社会と連携した道徳授業実践が行われるよう呼びかける。

・福祉読本の有効活用が図られるよう、学校・教職員へ働きかける。

2-(2) 体験活動・ボランティア活動の支援

H23施策評価
3

主な事業 ・子ども農山漁村交流プロジェクトの推進
 ・子ども体験活動・ボランティア活動推進事業

●施策の目標

指標 1	子ども農山漁村交流プロジェクト参加校の割合 (%)						H23評価
現状	H22	H23	H24	H25	H26		2
指標目標	93	97	97	100	100	100	
進捗状況	95.6	93.8					
指標 2	ジュニアリーダー育成講座の修了者数(人・累計)						H23評価
現状	H22	H23	H24	H25	H26		4
指標目標	0	30	40	50	60	70	
進捗状況	16	111					

ジュニアリーダー育成講座の終了者数が目標値を大きく上回った。

・ジュニアリーダー育成講座は、中央区で中学生を、南区で小学生を対象に講座を実施、終了者も目標を大きく上回った。引き続き地域や学校と連携を深め、地域活動等に参加するジュニアリーダーの育成に取り組んでいく。

・子ども農山漁村交流プロジェクト参加校は、目標を少し下回ったものの、90%以上の学校で事業に取り組んでいる。

2-(4) いじめ・不登校への対応

H23施策評価
2.5

主な事業 ・教育相談ネットワーク事業
 ・カウンセラー等活用事業
 ・不登校未然防止プロジェクト

●施策の目標

指標 1	いじめの解消率 (%)						H23評価
現状	H22	H23	H24	H25	H26	後期進捗	2
指標目標	72	78	84	89	96	100	
進捗状況	81.7	82.4					
指標 2	30日以上欠席した児童生徒数(人)						H23評価
現状	H22	H23	H24	H25	H26	後期進捗	3
指標目標	848	減少	→	→	→	→	
進捗状況	747	743					

いじめの解消率は、目標には達しなかったが、前年度を上回った。

・いじめ解消率(完全解消率)が前年度より0.7ポイント向上した。一定の解消を含めると、改善された割合は95%を超える。

・不登校への対応では、各学校の欠席管理が定着し、それに基づく指導主事による学校への聞き取り・支援が充実した。

2-(5) 非行等への対応

H23施策評価
3

主な事業 ・非行防止対策事業
 ・中学校非行防止体制の充実
 ・非行対策サポート事業

指標 1	非行、暴力事故の解消率 (%)						H23評価
現状	H22	H23	H24	H25	H26	後期進捗	3
指標目標	70	80	85	90	95	100	
進捗状況	82.0	85.0					

非行、暴力事故の解消率が前年度より向上した。

・SST(スーパーサポートチーム)の出動回数が234回、SSW(スクールソーシャルワーカー)の出動回数が339回あった。かかわった事案のうち児童生徒に対応した件数は減少し、保護者に対応した件数が増えた。

・延べ3,380人の青少年育成員が、970回の街頭育成活動を行った。

2-(6) 体力づくりの推進

H23施策評価
4

- 主な事業
- ・体力向上ジャンプアップ推進事業
 - ・体力向上・運動大好きプロジェクトの推進
 - ・中学校部活動エキスパート・サポーター活用事業

●施策の目標

指標 1	中学校の体力テスト各項目で全国平均値を上回った項目の割合(%)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	59.3	61.0	63.0	65.0	67.0	67.0	
進捗状況		75.0	66.7				

体力調査で目標を上回った。

・前年度と比較し、小学校ではやや向上し、中学校ではやや低下した。

・「体力向上ジャンプアップ」について、市内全小中学校の取組を集約し、全校へ配付した。

・部活動エキスパートに49校延べ69人、サポーターに18校延べ141人を派遣し、運動部活動の活性化を図った。

2-(8) 食育の推進

H23施策評価
3.5

- 主な事業
- ・食に関する指導推進事業
 - ・学校給食の充実事業
 - ・学校と家庭との連携・協力事業
 - ・中学校スクールランチ推進事業

●施策の目標

指標 1	児童生徒の朝食欠食率(%) (朝食を全く・ほとんど食べない割合)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	3.9	2.0	1.5	1.0	0.5	0	
進捗状況		3.0	1.1				
指標 2	給食の残食量の減少(%)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	2
指標目標	4.0	3.8	3.6	3.4	3.2	3.0	
進捗状況		5.0	3.7				
指標 3	地場農林水産物の利用率(%) (食材数ベース)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	14.5	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	
進捗状況		14.7	15.5				
指標 4	肥満傾向の児童生徒の割合(%)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	8.30	8.25	8.20	8.15	8.10	8.00	
進捗状況		7.56	7.10				

児童生徒の朝食欠食率・給食の残食量が大きく減少した。

・市民から食育指導者を13名登録し、栄養士が未配置のスクールランチ校14校に延べ32回派遣し、食事や栄養バランスの大切さなどについて指導した。

・学校給食の充実では、ご飯を基本とした地域の食材を使った栄養バランスのよい日本型の食事(完全米飯給食)を引き続き進め、地場産食材の使用率も向上した。

4 自立と社会参加を目指した特別支援教育の推進

4-(2) 特別支援教育のサポート体制の推進

H23施策評価
4

- 主な事業
- ・特別支援教育の相談支援事業
 - ・特別支援教育ボランティアシステム

●施策の目標

指標 1	特別支援教育サポートセンターによる校内委員会支援件数(件)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	—	220	230	230	240	240	
進捗状況		391	423				
指標 2	特別支援教育ボランティアの登録者数(人・累計)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	82	110	115	120	125	125	
進捗状況		151	197				

特別支援教育サポートセンターによる校内委員会支援件数が、目標を大きく上回った。

・特別支援教育サポートセンターが核となり学校や保護者の相談支援を行った。
 <学校からの支援依頼 528件(前年比+54件) 保護者からの相談 370件(前年比+102件)> ※電話相談も含む

・特別支援教育ボランティアを募集し、登録した197人(前年比+46人)のうち、97人(前年比+23人)が学校・園で活動し、配慮を要する児童生徒の支援にあたった。

5 校種間・学校間連携を活かした特色ある学校・園づくり

5-1 校種間連携の推進

主な事業 ・幼・小・中連携・一貫教育の推進
 ・中学校・高等学校教員交流

H23施策評価
4

●施策の目標

指標 1	課題解決のための一貫した指導計画を作成した中学校区の割合(%)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	20	40	60	80	90	100	
進捗状況		46.0	67.0				

課題を共有し、解決のため一貫指導計画を作成した中学校区が増加した。

・すべての中学校区で、学力・体力、不登校・問題行動実態等のデータを共有し、共通課題の設定を行った。各中学校区の実態に応じて、工夫した行動連携を図ることができた。

7 家庭教育の充実と子育て支援

7-1 家庭教育充実の支援

主な事業 ・家庭教育振興事業
 ・「家庭と地域の教育力」調査・研究事業

H23施策評価
3.3

●施策の目標

指標 1	子育て学習出前講座の実施か所数(か所)(小・中学校など)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	2
指標目標	110	112	114	116	118	120	
進捗状況		106	111				
指標 2	各種家庭教育学級の実施か所数(か所)(プレママ学級を除く)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	48	49	50	51	52	52	
進捗状況		52	54				
指標 3	プレママ学級の実施か所数(か所)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	3	3	3	5	5	5	
進捗状況		4	5				

各種家庭教育学級の実施か所数が増え、家庭教育学級の充実が図られた。

・子育て学習出前講座を111か所で実施した。実施か所数は目標を下回ったが、校長会等に働きかけた結果、前年度から5校増えた。

7-2 子育て支援の充実

主な事業 ・子育て支援事業

H23施策評価
2.7

●施策の目標

指標 1	子育て支援事業の参加者数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	3
指標目標	5,625	5,700	5,800	5,800	5,900	6,000	
進捗状況		5,757	5,802				
指標 2	子育てフリースペース等の参加者数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	2
指標目標	13,266	13,500	13,500	14,000	14,000	15,000	
進捗状況		14,412	11,690				
指標 3	保育者研修会の参加者数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	3
指標目標	259	260	270	280	290	300	
進捗状況		237	274				

子育て支援事業・保育者研修会の参加者が増えた。

・保育者研修会の参加者が増え、目標を上回った。市民の学習活動を支える保育者の資質向上と安全で円滑な保育室運営に役立った。

・子育てフリースペース事業として、親の悩みを相談できる場を公民館10か所に開設し、親同士の交流を図った。参加者数が減少したが、その理由として東区役所移転に伴う中地区公民館の休館や大雪の影響が考えられる。

8 生涯を通じて学び育つ学習機会の充実

8-(2) 学び育つ各世代への支援

H23施策評価
3

主な事業 ・ビジネス支援講座 ・にいがた市民大学開設事業
 ・アクティブシニア支援事業 ・現代的課題を学ぶ公民館事業
 ・学習成果を発表する場の提供 ・子どもの読書環境の整備
 ・子どもが読書に親しむ機会の充実 ・ビジネス情報提供事業

●施策の目標

指標 1	にいがた市民大学の受講者数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	2
指標目標	506	500	500	500	500	500	
進捗状況		406	420				
指標 2	公共図書館における児童書の貸出冊数(冊)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	2
指標目標	1,056,000	1,126,000	1,162,000	1,181,000	1,200,000	1,220,000	
進捗状況		1,063,000	1,099,900				
指標 3	公共図書館で実施する子ども・親子対象事業の参加者数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	17,300	18,500	19,000	19,600	20,250	20,900	
進捗状況		22,700	19,980				
指標 4	ビジネス支援調査の相談件数(件)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	210	270	300	330	360	390	
進捗状況		340	340				

図書館で実施する子ども・親子対象事業の参加者数とビジネス支援調査の相談件数が、目標を大きく上回った。

・平成23年度から始まったブックスタート事業では、1歳誕生歯科検診時に6,112人を対象に読み聞かせと絵本のプレゼントを実施した。「子供に本を読んであげる機会が増えた」との声が寄せられている。

・児童書貸し出し数は、前年度を上回ったが目標を下回った。東日本大震災を受け、夏場の節電対策による夜間開館停止の影響が考えられる。

8-(3) 地域における生涯学習活動への支援

H23施策評価
3.5

主な事業 ・地域学関連事業
 ・地域コミュニティ活動活性化支援事業

●施策の目標

指標 1	地域学関連事業の参加者数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	3
指標目標	2,977	3,500	3,700	4,000	4,500	5,000	
進捗状況		3,193	3,799				
指標 2	公民館と連携事業を実施するコミュニティ協議会のか所数(か所・累計)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	24	26	28	30	32	36	
進捗状況		41	54				

地域学関連事業参加者が大幅に増え、目標を上回った。

・各区で地域学関連事業を実施し、地域の魅力や課題を探る学習を実施、参加者数が目標を上回った。

・コミュニティ活動活性化支援事業では、公民館と連携した地域コミュニティ協議会数が、新規13団体を含め47団体、累計54団体となり、地域で子どもを守り育てる活動や人材育成等の事業を実施した。

10 学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり

10-(1) 地域と共に歩む学校づくりの推進

H23施策評価
3.7

主な事業 ・地域と学校パートナーシップ事業
 ・ふれあいスクール事業
 ・学校開放事業

●施策の目標

指標 1	地域教育コーディネーターの配置校数(校・累計)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	64	104	→	→	→	171	
進捗状況		105	139				
指標 2	ふれあいスクール事業の実施校数(校・累計)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	3
指標目標	43	47	51	54	57	60	
進捗状況		47	51				
指標 3	公民館出前型事業の実施校数(校・累計)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	32	32	36	36	38	40	
進捗状況		35	56				

公民館出前型事業の実施校が目標を大きく上回るなど、地域と共に歩む学校づくりが推進された。

・地域教育コーディネーターは、新規校34校を含め、139校に配置され、地域と共に歩む学校づくりを推進した。

・子どもふれあいスクール公民館出前型事業は、運営主任や地域教育コーディネーターが連携を取り、新規21校を含め39校、累計56校で実施され、地域と学校がつながるきっかけとなった。

11 子どもの安全確保と学校・園の安全管理

11-(2) 安全教育の充実

主な事業・安全教室推進事業

H23施策評価
3

指標 1	警察署や消防署などによる防犯・防災教室の開催回数(回)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	3
指標目標	261	285	310	335	360	370	
進捗状況		291	314				

警察署や消防署などによる防犯・防災教室の開催数が目標を上回った。

・防犯・防災教室の開催回数は目標を上回った。専門的な知識・経験をもった方から指導を受けた学校は175校(93%)に上る。

・津波被害が予想される地域では、学校の実態に応じて防災計画を見直し、避難訓練を行った。

13 市民に信頼される教育関係職員の育成

13-(1) 教育関係職員の研修プログラムの充実

主な事業・マイスター養成等スキルアップ研修の推進
・学社民融合研修の推進
・社会教育主事の養成の推進

H23施策評価
2.8

●施策の目標

指標 1	各研修講座における受講者の満足度(%) (充実した研修だったかをA,B,C,Dの4段階で評価したときAと答えた受講者の割合)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	80	80	80	80	80	80	
進捗状況		84.5	88.3				
指標 2	マイスター養成等の修了者数(人・累計)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	2
指標目標	47	60	70	80	90	100	
進捗状況		57	66				
指標 3	学社民融合研修の受講者数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	437	503	578	636	699	770	
進捗状況		1,104	745				
指標 4	社会教育主事講習の修了者数(人・累計)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	1
指標目標	36	39	42	45	48	50	
進捗状況		37	33				

各研修講座受講者の満足度が目標を上回った。

・学校教育関係職員の研修では、学校ニーズの把握に努め、講座等事業内容の改善をした結果、受講者の満足度がさらに向上した。

・教育委員会関係各課職員に社会教育主事講習の周知を図り受講を呼びかけたが、目標に届かなかった。

13-(2) 教職員への支援体制の充実

主な事業・支援を要する教職員の研修
・教職員ヘルスケアシステム
・多忙化解消対策の推進

H23施策評価
4

●施策の目標

指標 1	支援を要する教職員の人数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	30	減少	→	→	→	→	
進捗状況		25	21				
指標 2	教職員の病気休暇・休職者の人数(人)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	108	減少	→	→	→	→	
進捗状況		108	87				
指標 3	放課後に子どもと接する時間が1週間あたり5時間以上の教員の割合(%)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	4
指標目標	18.5	19.0	20.0	—	—	—	
進捗状況		25.8	49.7				

支援を要する教職員の研修や多忙化解消の取り組みの成果が表れ、すべての指標で目標を上回った。

・総合教育センターと連携し予防的研修を行うことにより、支援を要する教員が25人から21人に、教職員の病気休暇・休職者は、108人から87人にそれぞれ減少した。

・多忙化解消対策を推進したことにより、放課後子どもと接する時間が週5時間以上取れる教員の割合が、25.8%から49.7%に増え、目標を大きく上回った。

13- (3) 信頼される教職員の採用・登用

H23施策評価
1

主な事業 ・教員採用選考検査
 ・管理職選考検査

●施策の目標

指標 1	女性管理職(教頭)登用率(%)						H23評価
	現状	H22	H23	H24	H25	H26	後期進捗
指標目標	24.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	1
進捗状況	26.3	17.4					

女性管理職(教頭)の登用率が目標を下回った。

・女性教頭の登用率が17.4%と目標を下回った。改善に向けた取組の結果、女性の受検率が15.6%に上昇し、平成24年度採用では登用率が約10%上回る見込みである。

・教職員の採用に当たっては、一般選考のほか、スペシャリスト特別選考と教職経験者特別選考を実施、人物重視の視点から、第1次検査、第2次検査とも個人面接を行い、2次検査では民間面接官を入れて実施した。

3 教育ビジョン推進委員からの主な意見・要望と教育委員会の対応

施策1－(3)「基礎・基本を身に付ける教育の推進」

- 算数・数学の学力で小学校が向上し、中学校で低下したという現在の状況は、最近起きたのか。過去もそうだったのか。小6から中学生になった4月にやっても下がっているのか。小中連携の視点からの現状分析をしっかりとる必要がある。
 - ⇒ 小中とも、どの子にも確実に身につけてほしい基礎基本について習得されていない一面がある。基礎基本を着実に身につけることをねらいステップアップ Web 配信を開始した。小中学校とも改善が見られているが、中学校では難易度も上がるため改善の度合いが異なっている。小中校長会と問題意識を共有して、日々の授業改善に取り組んでいく。
- 中学校学習指導要領の全面実施の中、学力の向上には指導力の向上が欠かせない。授業改善を進める上で、さらに研修体制の充実が必要である。
 - ⇒ マネジメント研修で、校長・教頭等を対象に、校内研修の活性化をテーマに研修をしている。各教科の授業改善では、全教科で大学の先生方の講義、演習を含めた講座を開設した。その中で授業改善の方向づけを行っていく。若手教員については、指導主事やマイスターを活用し、授業づくり、授業実践を通じた指導を行っている。
- 学力の指標が、全国平均を上回るかという相対評価で見ているが、学力をどの子にも身に付けさせたいという観点からすると、絶対評価的な見方をしていく必要があるのではないかと。体力の評価についても同様である。
 - ⇒ 現在の指標は、文部科学省の学力実態調査がその年の問題の難易度によって左右されることから、わかりやすさという観点で設定した。相対的な見方で、一喜一憂するのではなく、身に付けさせるべき力がきちんとついているかが大事である。できるだけ資料を集めて現場に返していきたい。
- 確かな学力の定着には、細かな分析が必要である。A問題、B問題の設問ごとに分析し、弱い点を Web 配信に反映させたり、授業改善も総論ではなく弱い部分をこうするという具体策へ生かしたりしていく方がよい。

施策4－(2)「特別支援教育のサポート体制の推進」

- 特別支援教育に関して、サポートセンターや学校支援課特別支援教育班からしっかりサポートいただき感謝している。多くのニーズに応えていただいている中で、人的な面が足りているのか不安を感じる。
 - ⇒ 大勢の方々から手を挙げていただき、ボランティア配置という面では心配していない。特別支援教育のニーズが高まる中、介助員やサポート体制については、限られた財源の中で精一杯やらせていただいている。
- 小・中学校での特別支援教育は充実してきていると思うが、高校、大学、就労というところでつまずきを感じる。昨年度、新潟市若者支援センター「オール」ができ、課題を抱えた若者の支援や就労支援が期待される。現在どのような支援が行われているか。
 - ⇒ オールでは、様々な課題を抱えた若者への支援として、相談業務や自信を育てる講座などを行っている。学校や就労支援機関との連携については検討を始めたところである。

- 特別支援教育においても幼保小連携の重要さが指摘されている。保育園や園児の保護者を対象にした就学ガイダンス等はどのように行われているのか。
 - ⇒ 保育園・幼稚園保護者に対する就学ガイダンスを行っている。さらに、幼児ことばとこころの相談センターなどと連携するなど、教育委員会として福祉サイドにできる限り協力している。

施策7－(1)「家庭教育充実の支援」

- 学校現場には、児童虐待や虐待のおそれがあるという情報がたくさん来る。子育て中の親子を対象とした事業がたくさんあるが、虐待のおそれがあるという家庭ではそれらの事業に進んでいくことがないと思われる。そういった人も行ってみようと思う内容の工夫が必要である。
- 家庭教育学級のようなところとつながれない保護者が虐待に進んでしまうと思われる。講座数を多くするだけでなく、保健師の巡回のようなことをしないと本当に救わなければいけない人に届かない。
 - ⇒ 講座に行けない保護者の問題では、保健師が悩みの相談を受けると、その悩みに応じて講座や相談窓口を紹介している。福祉サイドとの連携を一層深めたい。
- 指標3で、プレママ学級の実施か所数が市内5公民館で実施され4となっている。人間は本能だけでは子育てが難しい面があるので、親になる前の教育が大切である。プレママ学級を充実させてほしい。
 - ⇒ 意見を踏まえ、増やしていくよう努力したい。

施策10－(1)「地域と共に歩む学校づくりの推進」

- 学・社・民融合の教育で、地域教育コーディネーターが入り、非常に大きな成果を上げているが、学校や地域によって差があるとも聞いている。コミュニティ・コーディネーターにしても同様な課題が予想される。均一に向上していくために、市としてどうバックアップしていくかが求められている。

施策11－(2)「安全教育の充実」

- 学校での防災教育は充実しているが、防災は学校単位だけでなく、地域全体で取り組むことが必要である。どのように取り組んでいるか。
 - ⇒ 県といっしょに新潟県防災教育プログラムに取り組み、津波をはじめとした5つの災害を想定した対策学習プログラムを進めている。また、区役所やコミュニティ協議会等と連携した避難訓練なども行っている。
- 情報モラルやインターネット絡みの犯罪は、家庭のルールが大きな要素になっている。市全体で数回講演があっても各家庭・保護者には届かない。学校と連携し参観日の後に講演会を設けるなど、学校教育を超えた取組も必要ではないか。
 - ⇒ 学校教育の方で火付け役となったりしながら、警察や関係機関と連絡会議を持つほか、学習プログラムの構築を検討している。

施策 13－(1)「教育関係職員の研修プログラムの充実」

- マイスターとして認定される教員が増えありがたい。マイスターが様々な研修に力を発揮している中、学校訪問をしてもらいモデル授業をってもらうなどして授業力の向上を図りたいと思うが、マイスターが学級担任であることが多く外に出にくい現実もある。マイスターの活用について学校から出やすくなるような見通しはあるか。
 - ⇒ マイスターは学校でも中核の役割を担っているので、年間5日だけお願いしている。それ以外については、アンケートを校長とマイスターに行い派遣日数を決めている。

- CST（コア・サイエンス・ティーチャー）の養成で、1人2人優秀な人が生まれても、全市的に効果を波及するのは難しい。分かる授業だけでなく楽しさやおもしろさを体得させることが大切である。理数系ではトピック的に扱える教材がたくさんあるので、中学校の先生が小学校に行ったり高校の先生が中学校に行ったりするなど、トップレベルの育成と併せて身近な専門家をうまく活用するとより充実する。
 - ⇒ CSTについては、上越教育大学等の連携の中で、理科のマイスター7名のうち、1名がCSTの特別認定を受け、残りの6名についても認定を受けることができる予定である。現在、CSTに関しては、教職員課と連携し、センター近くの学校に配置してもらい、CSTから総合教育センターの研修を運営してもらっている。新たにCSTに認定された教員についても、マイスターと一緒にいろいろな研修に参加してもらい、理科教育を推進していく。

- 社会教育主事講習の評価が低いが、制度そのものの存続というところに一つの課題がある。今後の見通しはどうなっているか。
 - ⇒ 毎年新潟大学で行われる状況ではないので、社会教育主事講習が受けられる時期に合わせ、社会教育関係や学校に周知を図り受講できる体制を整えていきたい。公民館等については、一度で全員受講できる状況ではないので、複数年の中で修了できるようにしていく。

資料

1 新潟市教育ビジョン推進委員会 平成23年度施策評価の経過

No.	開催年月日	協議内容
1	平成23年 2月15日(火)	平成23年度主要事業について(当初予算説明)
2	平成23年11月 9日(水)	平成23年度施策実施状況について(中間評価)
3	平成24年 6月 4日(月)	平成23年度施策評価について(最終評価)

2 新潟市教育ビジョン推進委員会(第4期)委員名簿

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

No.	氏名	所属
1	岡 昌子	北新潟地域づくり学会副代表
2	眞谷 誠祐	元新潟市PTA連合会会長
3	中村 恵子	新潟青陵大学看護福祉心理学部教授
4	宮 蘭 衛	新潟大学教育学部教授
5	岩田 すみ江	横越小学校長
6	川端 弘実	白新中学校長
7	梅津 威	公募委員